

10
月号

びざん

J A NEWS 2020 No.617



稲刈りスタート

8月6日、北部農業経済センター管内で今年初めての稲刈りがありました。不動北町の武市友樹さんは2杉の圃場で早場米「ハナエチゼン」の刈り取り作業を開始。

「今年は梅雨明けが遅れたため、例年より3日遅い作業でしたが、7月中に台風がなかったため、稲が倒れることがなく豊作。」と笑顔で話されました。

8月18日頃より「コシヒカリ」の刈取りに切り替わり、8月末まで作業が続く予定です。

表紙写真は父・武市二郎さん



ゆず・すだちを 松山油脂へ供給



当JAは松山油脂株式会社(本社・東京、佐那河内村と業務提携をしました。

9月9日は、本所に松山油脂株式会社(本社・東京)代表取締役 松山剛己社長と佐那河内村 岩城福治村長が来所されました。

佐那河内村は松山油脂の研究を誘致し、今後この施設においてゆずの表皮から抽出した精油を使用したスキンケア製品等が研究・開発・製造される予定です。松山油脂とは、当JAの営農経済事業では肥料・農薬、生産資材の連携を始め、金融共済事業においても取引きが始まりました。本年度からゆず、すだちが松山油脂に供給される予定です。

これにより村の耕作放棄地の縮小や生産者の農業所得の増大、また今後の地域振興に期待しています。

松山社長は「ゆずの魅力は外皮、精油、表皮、残渣など広い視野で見て非常に価値がある。まずは苗木を増やして、5年、10年かけて、トライアンドエラーを繰り返しながら製造に挑む覚悟です。」また、岩城村長は「温州みかんの生産が非常に盛んだった時代は山一面、黄色に彩られた村だった。再び彩を取り戻し、村を活性化させたい。」と話されました。松田組合長は、「今回の提携により、松山油脂と一緒に村の再生の手助けをしていくと共に、ゆず、すだちの生産増量により、販路拡大を図り、生産者の収入増を目指し、JAとしての本来の目的を果たしたい。」と話されました。

(写真は本所にて ㊦松山社長、㊧松田組合長、㊨岩城村長)

玄米まつり 今年も開催

8月29日に管内10ヶ所で玄米まつりを開催しました。

当JAでは、1等米を更に食味計で図り、一定値以上の数値が出た選りすぐりのお米を販売しています。

今年の新しい取り組みとしては、米の食味ランキング2年連続 最上級の「特A」評価を獲得した「あきさかり」の予約販売を行いました。

また、24日から新聞広告や四国放送とケーブルテレビのCMでの告知を行ったり、コロナウイルス感染防止対策として、リピーターにダイレクトメールを送り、電話での予約販売を強化しました。

今年は通常2日間の開催を1日に短縮したにも関わらず、個人新規顧客は昨年よりも増加。販売を担当した営農経済部 経済課 桶川加奈課長代理は、「今年は新規顧客が非常に多かった。CMや新聞広告の効果も絶大に感じた。おすすめの新米の食べ方は、塩むすび。管内で採れた新米の本来の風味が一番豊かに味わえるので、是非、試して頂きたい。」と話しました。(写真は本所前会場)



令和2年9月30日をもって営農経済経過措置が終了いたします。

経過措置終了に伴い、渭東支所・国府支所・北井上支所・
 応神支所・南井上支所・勝占支所の6店舗の営農経済課、
 購買店舗業務が終了いたします。

10月1日より組合員様、ご利用者様には、ご不便をおかけいたしますが、
 購買業務につきましては下記店舗でのお取引をお願い致します。

(※尚、販売業務につきましては従来通りとなります。)

渭東支所⇒「川内ミニ資材店舗」

国府支所・北井上支所・応神支所・南井上支所⇒「北部ミニ資材店舗」

勝占支所⇒「多家良ミニ資材店舗」

また、下記ミニ資材店舗の土曜日の営業を休止させていただきます。

多家良支所、川内支所、佐那河内支所、眉山支所の4店舗

※尚、北部ミニ資材店舗につきましては従来どおりの営業となります。

組合員カードが導入されます。



組合員カード本体イメージ

即時値引きシステムが導入されます。

詳しくはお近くの支所、
 購買窓口にお問い合わせください。



(写真は新米を検査する三木将志
 検査員)



米の初検査
 8月11日、北部営農経済センター、
 東部営農経済センターの集出荷場で
 20年産米の初検査を行いました。
 初検査では、ハナエチゼン981
 袋(1袋30キ)が持ち込まれ、検
 査員が米の袋に穀刺を入れて米を取
 り出し、カルトンと呼ばれる白と黒
 の皿で米の着色や虫の被害、形質、
 未熟米、被害米の割合を目視で検査
 しました。
 三木将志検査員は「今年は梅雨明
 けの遅れから、例年に比べ、出荷が
 後倒しの見込みだが、見た目や揃い
 がよく、全体的に品質良好。高品質
 な米を消費者に届けたい」と話しま
 した。



(写真は松茂直売所にてお客様
 にプレゼントを手渡す黒田副店
 長)

「野菜の日」産直イベント
 8月29日から31日までの3日間、
 なつとく市場、松茂直売所にて、
 JA全農とくしま、JA徳島中央
 会、徳島県農産物消費拡大協議会、
 徳島県にんじん振興協議会、徳島
 県JA農産物直売所連絡協議会の
 共催、徳島県農林水産部もうかる
 ブランド推進課の協力のもと「野
 菜の日キャンペーン」を開催しま
 した。
 このイベントはJAグループが
 8月31日の野菜の日に「徳島の野
 菜をもっと食べよう」と野菜の消
 費を呼びかけるもので、県内17直
 売所、全店舗でこのキャンペーン
 が行われました。
 当直売所にて野菜を含め、50
 0円(税込)以上のお買い物をお願い
 したお客様、先着50名様に料理レシ
 ピの冊子と徳島すだちウォーター
 をプレゼントしました。
 直売所担当者は「野菜のレシピを
 活用頂き、直売所の新鮮な旬の野
 菜をたくさん食べていただきた
 い。」と話しました。



**7月豪雨災害義援金を
 日本赤十字社へ**
 8月20日、当JAは近隣JAと協同で今年7
 月に九州で発生した豪雨災害に対する義援金を
 集め、日本赤十字社徳島県支部に寄付をしまし
 ました。
 7月10日から8月2日までの約1か月間、直
 売所に募金箱を置き合計298,125円の義
 援金が集まりました。
 今回、代表して義援金の目録を贈呈した当J
 A丸岡博常務は「多くの方が主旨を理解してく
 ださり義援金が集まりました。少しでも役に立
 っていたら嬉しいです」と話されました。
 日本赤十字社徳島県支部の新居啓司事務局長
 は「とてもありがたい。復興はまだまだこれか
 ら。被災された方々が一日でも早く普通の生活
 に戻れるよう全額被災者のもとへ届ける。」と
 話されました。
 日本赤十字社では全国で義援金を募り、現在
 までに20億円を超えるお金が集まっています。
 JAでは今後も災害時に協力しながら支援を
 行っていく予定です。
 (写真は日本赤十字社徳島県支部の新居啓司事
 務局長、当JA丸岡博常務、JA大津松茂の沖
 野晴彦参事、JA板野郡営農経済部経済課の坂
 東裕二課長、JA東とくしまの柏田要子副参
 事)



(写真は④多家良支所イチゴ部
 会 鶴巻秀明部会長、⑥茎部分を
 ペンチで押さえ、汁を搾り硝酸
 態窒素の濃度を測る徳島農業支
 援センター 佐藤章裕さん)

いちご硝酸態窒素検査
 8月下旬より管内でイチゴの
 硝酸態窒素検査を実施していま
 す。
 8月27日、多家良支所イチゴ
 部会は各農家で育てた「さちの
 か」や「恋みのり」のサンプル
 を持ち込み、硝酸態窒素検査を
 行いました。徳島農業支援セン
 ター 佐藤章裕さんが成長点より
 3枚目の葉の茎の部分採取、
 コンパクト硝酸イオンメーター
 で硝酸態窒素の濃度を測りまし
 ました。
 硝酸態窒素検査は、液肥の調
 整など花芽分化に向け、適正な
 肥培管理をするために行ってお
 り、9月下旬に花芽検鏡を実施
 する予定です。
 佐藤さんは「全体的には数値
 はちょうど良い状態だが、窒素
 がやや少ない。今後、液肥をか
 けて肥料の調整をするように打
 合せをした。」と話されました。
 (写真は④多家良支所イチゴ部
 会 鶴巻秀明部会長、⑥茎部分を
 ペンチで押さえ、汁を搾り硝酸
 態窒素の濃度を測る徳島農業支
 援センター 佐藤章裕さん)

露地すだち出荷開始

果樹選果場では6日から露地すだちの出荷が始まりました。

すだち統一部会は、生産者約400人で約80畝を栽培。総出荷予定量は加工用等含め680ト。今年度は梅雨明けが例年より遅れ降水量が多く、着果数が少なかつたため果実肥大は順調で、出荷開始からの出荷重量は1日あたり約7トで例年の約2倍ほどになっています。

選果場は高性能選別カメラなどを備え、選果効率を上げています。品質を統一し、高品質出荷に努め出荷物の一元管理による販売力の強化を図っています。

今年度は新型コロナウイルスの影響で、従来の消費宣伝等ができない中、新たな顧客の開拓、さらなる認知度向上、消費拡大を図るため、インターネット等を活用してのPRを積極的に行う予定です。

露地すだちの出荷のピークは8月下旬から9月上旬。安全・安心で高品質なすだちの出荷ができるよう栽培管理の徹底、適期収穫の励行、腐敗果などの混入がないよう選果・選別を行います。



露地すだち品評会

佐那河内村において、8月18日、佐那河内農業振興協議会が主催する露地すだちの品評会が行われました。品評会は、生産者の技術向上のために毎年開催されています。

17日から18日までの間で、当JA露地すだち部会からは64点の出品がありました。

審査員として東部農林水産局農業支援第一担当者、JA全農とくしま担当、選果場担当者が参加し、厳正なる審査が行われました。

審査基準としては、外観が滑らかで緑色の濃いもの、色や粒ぞろいの良いものが選ばれます。露地すだち部会森下嘉文部会長は「今年は天候に恵まれて、色が濃く、良質なすだちがたくさん出荷できている。是非、旬のすだちを全国の消費者に味わってほしい。」と話されました。審査結果は左記をご覧ください。



最優秀賞 大仲香織さん
優秀賞 青木勝茂さん

西川和弘さん、森本貞夫さん、北山勝敏さん

写真は⑥露地すだち部会森下部会長、⑦佐那河内農業振興協議会加藤秀数会長



BSテレビ東京おいしいのかたち に露地すだち森下部会長の紹介

8月31日、佐那河内村露地すだち部会森下嘉文部会長は、BSテレビ東京で毎週木曜日に放送中のドキュメンタリー番組「おいしいのかたち」の取材を受けました。

この番組は農業の現状と、さまざまな取り組みを紹介することで、視聴者に「農業と「食」に対する理解と共感を深め、未来志向の農業を伝えることを目的としています。

撮影は、森下部会長の園場にてドローンによる栽培地や収穫場面、また、すだちの選別・箱詰め作業の様子は果樹選果場にて行われました。

農産工場では、オリジナル商品の「新鮮！てしほりすだちしょうゆ」やすだち果汁の瓶詰め商品などを紹介。次世代の事業に向けて多方向に視野を幅広く向け、活動をおこなっていることをアピールしました。すだちの生産に当たっては過疎・高齢化の問題に直面しつつも、これからの課題に真剣に向き合いながら、取り組みを行う様子や、生産者としての森下部会長の熱い情熱が約3分間の番組内に凝縮されまとめられています。

番組はBSテレビ東京にて毎週木曜日20時55分〜21時00分まで放送されています。今回の取材の放送回は9月17日でしたが、番組公式サイトにて過去放送分はいつでも視聴できます。

(写真は選果場にて箱詰めの様子を撮影する番組制作会社スタッフ)



連載vol.3

“ほなけん、がんばるんじょ” 「これからの時代を見据えて」



八万支所 融資課
課長 岡島 英則



信用事業において、15支所を3ブロック(A・B・C)に分けたAブロックの統括支所である八万支所の融資課長を務める。融資の専門分野に特化した融資課ができて3年目。

おもに組合員のニーズに応える農業資金・生活資金・資産活用等の相談や提案をはじめ、地域住民に対して、生活資金を中心とした住宅ローン、カーローンなどの融資相談業務を担っている。また、ブロック内の融資案件について担当者やお客様へ同行訪問を行っている。今年に入り新型コロナウイルスの感染拡大により、影響を受けた農業者の方々の支援を目的とした「新型コロナウイルス感染症対応資金」においては、制度の周知や、申請補助を行う担当者の指導に尽力した一人。

「わかりやすく」を心掛けている。理解を深めてもらうために、イメージしやすいよう、専門用語は使わず、図を画くなど視覚化していること。

仕事をしながら夢を感じることは？

お客様が描いた夢の過程を身近でサポートさせていただきながら、夢が実現された時にやり甲斐を感じる。

今後、取り組んでいきたいことは？

JAにおいて将来、「融資」の重要性はもっと大きなウェイトを占めていくと思っている。「融資」の業務が信用事業において、いわばエンジンの役割に変わりつつある中で、後輩の育成はもちろん、他部門の職員も融資についての知識を深め、より一層、組合員、利用者のニーズに応じた提案ができる体制づくりの一翼を担いたい。



仕事中心 心掛けていることは？

お客様へ商品のご案内や説明をするときは、とにかく

「不器用なので仕事では最大限に集中して取り組んでいる。」とのこと。
後輩からは「わからないことに対して親身になって教えてくれる。面倒見が良い。」と人望も厚い。また、ON(仕事)とOFF(プライベート)の切り替えに非常にメリハリがあるとの評判も。本人はあくまで「不器用なので仕事では最大限に集中して取り組んでいる。」とのこと。

皆さん、こんにちは。徳島往診クリニックの吉田です。9月4日の徳島県発表によりますと、県内の新型コロナの累計患者数は145人となり四国で最多となっています。県内各地でクラスターも発生しており、もはや身近な存在となりました。そこで期待される早期のワクチン開発・実用化ですが、そもそもワクチンとはどういったものなのでしょうか。

ワクチンとは、病原体から作られた抗原を投与することにより体内に抗体を産生させ、感染症に対する免疫を獲得させる医薬品です。

その種類には様々なものがあり、ウイルスや細菌そのものを注射する「生ワクチン（麻疹やBCG）」や、ウイルスや細菌を分解してその蛋白等を注射している「不活化ワクチン（インフルエンザの予防接種）」があります。また対コロナとして、現在以下のような最先端技術を使ったワクチンが開発されています。

- ベクターワクチン：ヒトに対して病原性がない、あるいは低いウイルスのベクター（遺伝子の運び屋）を利用したもの
- 組み替えタンパクワクチン：遺伝子を組み換えたタンパク質を利用したもの
- 遺伝子ワクチン：mRNAやDNAの断片を身体に投与するもので、開発スピードが他に比して格段に速い

ロシア政府は世界に先駆け、8月に自国産のワクチン（ベクターワクチン）を承認しましたが、英医学雑誌ランセットは9月4日、初期的な臨床試験で、抗体をつくる効果を確認したとする論文を発表しました。また、WHOの9月3日時点のまとめによると、現在、臨床試験に入っている新型コロナワクチン候補は34種類。このほかに142種類が前臨床の段階にあるとのことです。

日本政府は7月末に米ファイザーと1億2千万回分（mRNAワクチン）の供給を、8月上旬には英アストラゼネカと1億2千万回分（ベクターワクチン）の供給を合意しています。また現在政府はワクチン接種の費用の自己負担を全員無料とする案を検討しており、令和3年前半までに国民全員に提供する量のワクチン確保を目指しているとのことです。しかしながら、世界保健機関（WHO）は、新型コロナウイルスに対する完璧なワクチンという「特効薬」が開発されることは永久にない可能性があるとの警告を発している、マスクの着用やソーシャル・ディスタンス（社会的距離の確保）、手洗い、検査などの衛生対策をワクチン開発後も引き続き積極的にとるよう促しています。

徳島地方法務局からのお知らせ

預けて安心! 自筆証書遺言書保管制度

全国の
法務局で
ご利用いただけます。
※本庁・支局等合計312か所
遺言書の保管の申請には
手数料 **3,900円**が
かかります。

あなたの
大切な遺言書を
守ります



令和2年
7月10日(金)
開始



終活の一部として
ご利用ください!!

～本制度を利用すると～

- ★法務局が保管するので、改ざんのおそれがない。
- ★家庭裁判所の検認が不要となる。
- ★遺言者の死後、証明書の発行や閲覧がされると相続人等全員に通知がされる。
- ★遺言書の保管申請が3,900円です。

詳しくは徳島地方法務局ホームページ
供託課 ☎ 088-622-4867
阿南支局 ☎ 0884-22-0410
美馬支局 ☎ 0883-52-1164

お知らせ

理事会だより(令和2年8月25日)

協議事項

- (1) 総定数および役員定数について
- (2) 3億円超の信用の供与について
- (3) 組合と理事の利益相反取引について
- (4) その他

報告事項

- (1) 徳島県農協教育基金の返還について
- (2) 債権回収について
- (3) 前回総務・営農経済委員会および金融共済委員会の協議内容について
- (4) JA徳島市 勝占支所東側駐車場の売却について
- (5) その他

島田清弁護士[®]の無料法律相談

通常どおり開催いたしますが新型コロナウイルスの感染状況によりましては開催できない場合がございます。

日時 第3土曜日 9:00～12:00

申込先 金融共済部へ事前に予約が必要。
088-622-8003

場所 本所1階金融相談室



賀上延啓税理士事務所の無料税務相談

※下記の通り開催予定ですが、新型コロナウイルスの感染状況によりましては、開催できない場合がございますのでご了承ください。

日時 10月13、20、27日
9:30～15:00

申込先 総務部へ事前に予約が必要。
088-622-6335

場所 本所1階ローンセンター

